

粕谷和夫の観察日記より。マツムシソウです。7月26日入笠原原は、ヤナギランのような夏の花が満開を迎えていましたが、その一方で、秋の高原の代表的な草花で高原に秋の訪れを告げるマツムシソウの気の早い株が花を咲かせ始めていました。マツムシソウの花の背景は八ヶ岳です。♡富士山には月見草が似合うとは太宰でしたね。

紅葉台



新聞

第94号

2023年
9月9日

発行人：関谷 孝

きまぐれカフェ 地域の縁側



紅葉台新聞92号でめじろ台のオープンカフェを紹介しました。その時のメンバーが高尾でも「きまぐれカフェ」を今年の7月より始めるというので見学を兼ねて出かけました。

場所は、浅川市民センターから高尾山方面に向かって歩くと、道がカーブしているところがあります。その近くにある「ねぶた荘」1階。川沿いにあります。今年の2月めじろ台の「すずのなる木」(紅葉台新聞56号にて紹介)が閉所し、こちらに拠点を移しました。運営しているのは、生活クラブACTたすけあいワーカーズ バードハウス。どんなことをしているかは、「地域の助け合いと笑顔でつながる安心の拠点」です。具体的には、①ACT会員の自立援助サービス。②介護予防・生活支援サービス。③居場所づくり・レンタルスペース。④地域交流『めじろ台オープンガーデン』『高尾きまぐれカフェ』運営。

この日は地域の方を含め全部で10名が参加しました。Kさんは、「最近引っ越してきて、近くにこのようなコミュニティがあるのを知って心強かった」Mさんは、「編み物が趣味でストラップを作っています」「子供たちに教えたい」と。msさんは、「高尾の北口に子ども食堂が出来て利用している」「子供から高齢者まで誰でも集える場所はこれからも必要ですね」と話していました。この会を運営している大谷さん、谷岡さん、宮澤さん、小川さんはそれぞれ地域のためにできることを考えて集まったメンバーです。場所があって、それを運営する志のある人たちが集まっているからこそできることだと思います。話を聞いていると皆さんの熱い気持ちが伝わって来て地域のためにできることを考える仲間がいることに強く惹かれました。

今回の食事は、うどんと野菜の天ぷら。大谷さんの郷里から届いたうどんはこしがあってとても美味。夏野菜も郷里から届いた無農薬です。どれも新鮮で夏野菜のおいしさが詰まっていました。きゅうりの塩もみとショウガ。薬味もあってこれで500円。人の手のぬくもりがある食事は格別な味がします。皆さん初めての出会いでしたが話が弾みました。美味しいものを食べて楽しくおしゃべりするのは心身ともに健康にいいですね。小川さんは、いろんなことを仕事にしています。その一つに「かさ」「ヨモギ療法(お灸)」など、体の芯から温めて自然治癒力を高めることを勧めています。「仕事は自分の好きなことを楽しんでほしい」と。まったくその通り。主に広報で、チラシのデザイン



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

や事務をこなしています。皆さん得意なことで結び合っこのような試みを始めていることに羨ましく思いました。この高尾にも地域の憩いの場が出来これからが楽しみです。毎月1回は行うとのこと。また、いつでも訪れることが出来るよう、ここが日ごろから皆さんの憩いの場になるように運営していきたいと抱負を語ってくれました。興味を持った方は是非お出かけしてみたいかがでしょうか。一緒に参加してくださいの方も歓迎です！「八王子きまぐれカフェ」で検索。



次回は、9月13日(水)「おはぎ」

高尾の森 ふれあい食堂



今年5月高尾駅北口出ですぐ右の花屋さんの所に入ったところに「高尾ふれあい食堂」みんなの居場所が出来ました。子供も大人も誰でもウエルカム！みんなでテーブルを囲んで食事をしませんか。こども 無料・おとな 300円 (寄付で食堂の運営費になります)

開催日時 第2土曜日12時～15時
主催 高尾の森ふれあい食堂運営事務局

連絡先 渡邊賢一 090-2533-3257

協力 浅川地区社会福祉協議会

場所 10月より浅川市民センターに変更

8月12日お盆休みで台風7号が本州に向かってくる蒸し暑い日でしたが30人ほどの子どもや保護者が来ていました。迎えるスタッフの皆さんも会長の渡辺さん(下宿町会長)はじめ7~8人の方が料理を作っていました。



今回は「ジャージャー麺」毎月レストランのような豪華メニューに驚きます。それもそのはずプロの調理師さんがいますよ。企業からの寄付もたくさんありました。針生福愛(はりうとみえ)さんは、元小学校の教師で栄養士。食育に関心があり、当時から子供たちの食事内容に不安を抱いていました。渡辺さんが空き家を活用し場所を提供してくれ、この企画に賛同する人たちも集まり5月から本格的に始まりました。将来は地域の皆さんの居場所づくりになってほしいと願っています。

「私たちの願いは、一人ぼっちの子、孤立した家庭に寄り添い、共に生きること」「子供がおなかも満たされ、笑顔溢れる居場所に」「大人もつどい語りつながり、安らげる場所に」「温かな人の思いが広がり温かな社会に」との思いが込められています。早速、中2の生徒さんが自由研究でここを紹介してくれたそうです。詳しくはHPにて活動内容を見ることが出来ます。



詳細は題字にて検索を。次回は、9月9日(土)天ぷら。